

遺書小も相調置我相果是権之内い小神心  
平と臨く平山大小は法事科小也一其平小唯  
今又光公眼名と傳中平換中少公眼高海都うは合  
水く登城仕とく不可とく大度小加唯今うは身  
出相自今年宗一乞食相意之想子にくと可經は路  
志の如切も典贈中清言公に換中均より公  
少之則同通仕家乞中う席父子に下連るは  
権操の中流うと先知七百石を右邊伴一揚新  
一人之給人及持賜うは隱居仕樂み汝の如との事  
之有なり平山並制の心徳二年うは汝に其後  
羅織に相尋はら成後相違なく有赤月と書りくアカニ

と唱ゆ由  
羅織に相尋はら成後相違なく有赤月と書りくアカニ

外山之位先施御詠歌之事

江都市春加賀屋敷大御為小長谷市邊と云仁詠人  
く外山之位先施心身中て有く在香之席へ外山  
更なる思意之消息を汝くは或付外山及不録冊と送  
小建り右市在邊の在香の後も汝く帰府いゝ外  
山度詠歌と平川天神者り住居小川曲齋と云浪人小  
と一海曲味八市在邊の詠乃所ゆらぬ在款と云苑小

深く仕奉道に去る年三月廿八日御所出火之良  
由赤土蔵へ火入蔵器強し以焼失せり火葬りて土  
蔵の焼法の灰とわらんを流し置何れ灰の上小石  
をぬきのりせ能く見せしむ三位後叙あり上箱  
上包の紙も焼紙冊も廻り一ふ注焼分の所が并之別系  
依り由赤土蔵又いふ思儀小石の彫と市馬  
にりれ同人も之思儀千多う事らり文政三年  
四月京都在者小石幸ひの事右紙冊代市在者小  
頼右う事らり由赤款りし流書と頼由赤の去冬  
相果其輝埋之帝とる平河之神前小今位と右紙

うくと小東文倉の思を由同人頼其詠歌を

にくひふや是も塵よりかまざるは

いと白雲の富士の芝山

狸報恩盡忠節之事

文化十一年の事知而小新伊勢と勅は南村と秋月と学  
組小く御田名を文徳方より中間部屋へ狸報恩入中間  
折敷可く入強きとる汝を伯母子小御は丸大奥と勅  
女折良下り指一が其駭き汝聞文は不便の事我ふ